

2021年4月より中学校の教科書が大きく変わります。

～新学習指導要領～

この春（2021年4月）から中学校の教科書が大きく変わります。ではなぜ大きく改訂されるのでしょうか。社会のグローバル化やボーダレス化、AI技術、society5.0、といった急速な技術革新により今以上に時代が加速し予測困難な時代に突入することが予想されています。そこで、子供たちには自ら課題を見つけ・学び・考え・判断し・行動する、そしてよりよい社会や人生を切り開く力が求められています。今回はその力を育むための改訂なのです。



新しい基軸は『知識・技能』の習得、『思考力・判断力・表現力』等の育成、『学びに向かう力・人間性』等の※涵養、です。

※涵養（かんよう）：水が自然に染み込むように、無理をしないでゆっくりと養い育てること。

今回の改訂では全教科改訂されますが、やはり目玉となるのは外国語教育（英語）の改訂です。量・質ともに激変し難化します。まず単語数とページ数をまとめました。教科書によってまちまちではありますが、標準的にみて以下のように増加は間違いありません。今のうちから単語力アップ

単語数	
	現行 ⇒ 改訂後
合計	3000語 ⇒ 4000～5000語
高校	1800語 ⇒ 1800～2500語
中学	1200語 ⇒ 1600～1800語
小学	⇒ 600～700語

ページ数	
	現行 ⇒ 改訂後
中3	150 ⇒ 167
中2	153 ⇒ 168
中1	155 ⇒ 170

ページ数は東書・三省・開隆・教出・光村の5社平均

をしておくことをお勧めします。

内容の方は、高校履修単元の一部が中学に移行してきます（仮定法、現在完了進行形、原形不定詞など）。これにより今までの中学英語では表現できなかったことをより正確に表現できるようになるというわけです。

そのほか中2で習っていたことが中1で習うようになっていたり（be動詞の過去形や未来形）、小学校で学んだことを前提に中1教科書も作られています。そのため中1ではbe動詞と一般動詞はほぼ一緒に習い、助動詞 can も早い段階で出てくるなど、かなりボリュームアップされています。（上に兄弟や姉妹のいる方は要注意です。今回の新教科書は全く別物と考えた方がいいです。）

また国際基準 CEFER を参考に4技能5領域【聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり、発表）・書くこと】がより重視され、授業は原則、外国語（英語）で行うことを基本とするとまで言われていて、アクティビティがもっと増えることは間違いなさそうです。

また長文が難化すると予想されています。もちろん単語数や単元数が増加すれば当然のことと思うかもしれませんが、そういうことだけではありません。CLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）が本格的に導入されたことやSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の取り組み拡大加速案（SDGsアクションプラン2021）などにより、社会に直結した英語を身に着けようという方向性があるため、扱う素材（長文）も難化するようです。英語はもちろんですが日頃から社会情勢にも目を向け情報収集をしていかなければあっという間に差がついてしまいそうです。

紙面の都合上、CLIL や SDGs について詳しくお話できませんでしたが、ご興味があれば一度ネットで検索をしてみてくださいと思います。

（参考：文部科学省、内閣府、外務省、筑波大学、上智大学、日本 CLIL 教育学会）